

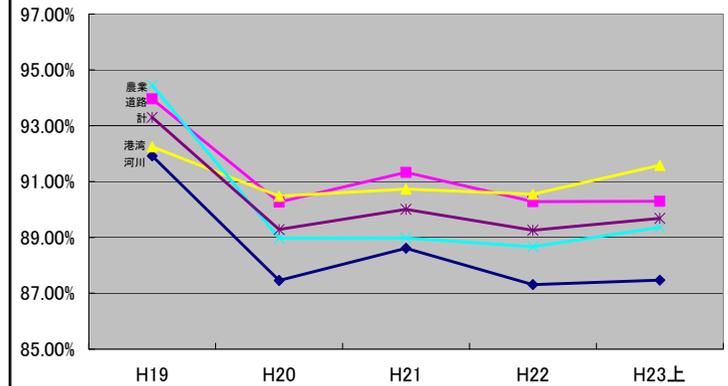
空知経営研究会との 「地域建設産業活性化」等に関する 意見交換会

建設マネジメント研究委員会の活動から見た
入札・契約の課題について

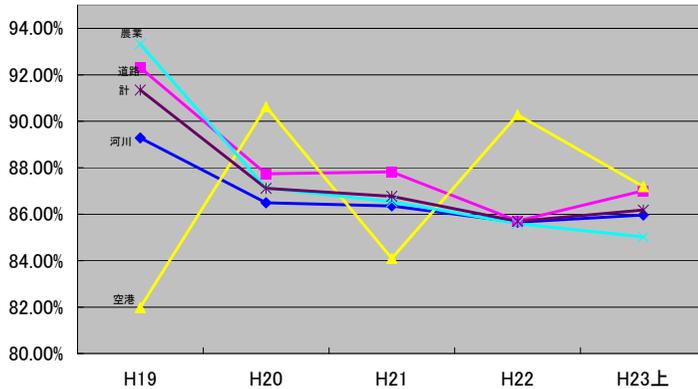
北海道土木技術会

建設マネジメント研究委員会幹事長 倉内公嘉

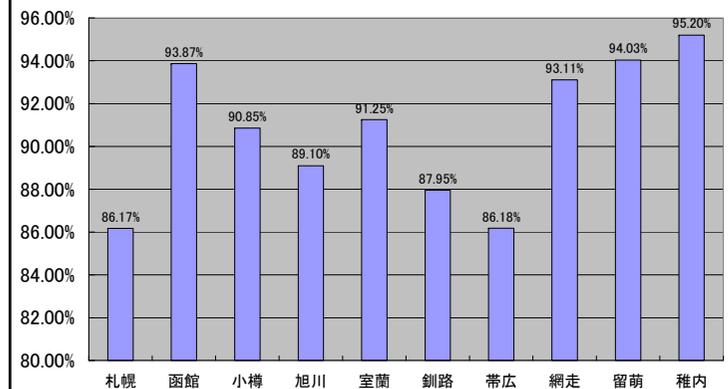
一般土木落札率、各年度契約ベース【全道、WTO除き】



一般土木落札率、各年度契約ベース【札建、WTO除き】



H23年度上半期の一般土木落札率(契約ベース、WTO除く)



総合評価模擬審査実験について

平成22年3月に建設マネ研究委員会では、総合評価の技術提案を模擬的に審査する実験を行いました。

5

実施フロー

模擬工事成	21年度発注工事をベースに作成(橋梁下部工事)
技術提案書提出依頼	2/16 公表を前提に模擬工事に対する技術提案の作成をお願い(小樽建協及び建世会5社)
技術提案書・自己採点提出	2/26
採点者への説明	3/11 模擬工事公告、図面等、採点様式、アンケート配付7グループに審査を依頼
各グループ及び提出各社で採点	各グループで採点を集約
採点結果の提出	3/24
採点結果の集計・考察	
報告会	4/3

6

審査員

審査員として、地方公共調達特別小委員会のメンバーの方の他、建設マネジメント委員会会員の企業の方にグループ別にご協力をお願いした

氏名	会社名
【大手ゼネコングループ】	
1 野口智之	前田建設工業株式会社
2 佐藤康雄	鹿島建設株式会社
3 市橋徳夫	大成建設株式会社
4 芳賀康博	大林組株式会社
【地元企業グループA】	
5 田中輝幸	伊藤組工業(株)
6 櫻平 聡	岩田地崎建設(株)
7 中井秀実	不二建設(株)
【地元企業グループB】	
8 飯島裕幸	大東工業(株)
9 東 彰	北土建設(株)
10 藤倉一男	(株)砂子組
【コンサルタントグループ】	
11 白根 直幸	日本データサービス社
12 大内 義仁	日本データサービス社
13 竹浦 真	機構研エンジニアリング
14 樋村 豊樹	機構研エンジニアリング
【建設技術センター・道庁グループ】	
15 金田 幸一	(財)北海道建設技術センター
16 大村 和史	(財)北海道建設技術センター
17 岡田 貴一	北海道建設部建設政策課
18 田中 謙	北海道建設部建設政策課
【元発注者グループ】	
19 伊藤清治	大北工業(株)
20 金子正夫	熊生駒組
21 権田静也	(社)北海道開発技術センター
22 沖野俊廣	岩田地崎建設(株)
【一般事務系グループ】	
23 熊本正寿	(株)北海道建設新聞社
24 田中 誠	北海道建設業信用保証(株)
25 熊田 洸	北海道建設業信用保証(株)
26 山林 弘	北海道建設業信用保証(株)

8

各グループの評価の視点について

①大手ゼネコングループ

→共通仕様書、コンクリート標準示方書に記載がある提案は評価しなかった。ただし、仕様書、示方書中の曖昧な記述を具体化している場合は評価

②地元B

→○×の評価は5社の相対評価とした。(点数評価をベースに行った。)

また、各定案を検定時に事後確認可能か不可かも評価判断に用いた。

④コンサルタント

→○×:絶対評価、5段階:相対評価、採用された提案がある場合は、提案項目数に関係なく○

⑤建設技術センター・道庁

→採点表の○×方式は、有効提案があったケースは全て○とし、提案の無いものを×

⑥元発注者

→各社提案の内、有効な提案の種類を抽出

⑦一般事務系

→文章から、各社の「熱意」や「受注意欲」「会社の風土」などを類推するとともに、提案項目がきちんと整理されているか、提案の理由・具体性が伴っているのか

⑧ 小樽開発建設部

→基本的に仕様書等の規定を上回る提案項目を評価効果が期待できる提案で履行が確認できる具体的な内容の提案を評価
○×評価では、各項目にひとつでも評価できる提案があれば○としている

各グループの評価結果

A社の提案

①養生方法について

提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
構造体を型枠の上からシート等で覆う	○	1/3	-	-	○	○	○	-
大風量温風ダクトヒータによる給熱	○	-	○	-	○	○	○	-
表面温度が20℃を超えないようにサーモ計を使用し管理	○	-	-	○	○	-	-	-
囲い内の出入口は、二重締切	○	-	○	○	○	-	-	-
初期養生を打ち切る場合には、コンクリートの表面温度と囲い内温度の差が5℃以内	○	1/3	-	-	-	○	-	-

②強度の管理・向上について

提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
生コン出荷工場の視察及び打設配合の強度発現状況等を事前に工場技術者と十分に協議	-	-	-	-	-	-	-	-
生コン工場から出荷の配合が所定の配合で製造されているか計量印字記録から確認	-	-	-	-	-	-	-	-
構造体の強度確認(構造体に「ボス型枠」を設置)	○	○	○	○	○	○	-	-

③ひび割れ対策について

提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
打設時の目標コンクリート温度を5℃~15℃	○	2/3	-	-	○	-	-	-
全車について出荷時のコンクリート温度を納入書に記載し、現場でも全車の温度測定を実施	-	1/3	-	○	○	-	-	-
脱型後のコンクリート表面に養生剤散布し急激な乾燥などの温度変化によるひび割れ抑制	○	2/3	○	○	○	○	-	○
AE 減水材を使用	-	-	-	-	○	-	○	-

④その他								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
施工条件に基づき、打込みの最小スランプを設定し施工における材料分離を防ぐ	○	-	-	-	-	-	-	-
防寒囲い内の温度安定及び鉄筋、型枠等の氷雪除去のため打設作業の前日から急給熱	-	2/3	-	-	○	-	-	-
コンクリートの運搬・打設及びコンクリートの養生を適正に管理する為日々の気象情報、週間予報、長期予報を集積し、かつ過去の記録を参考に施工管理	-	-	-	-	○	-	-	-
コンクリート打設作業中止基準を明確にし、周知	○	-	-	-	○	-	-	-

13

B社の提案								
①養生方法について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
防寒養生囲いには養生パネルを使用、寒風の進入を防止する構造	○	2/3	○	○	○	○	-	○
給熱は、温風送り式ヒーターで行い、ダクトホースにて躯体周囲に配管	○	-	○	-	○	○	○	-
温度管理には温度データを内部に連続記録できるものを使用し、パソコンで管理	-	1/3	-	-	-	-	-	△

②強度の管理・向上について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
セメントは普通ポルトを選定	-	-	-	-	-	-	-	-
現場養生の供試体を標準養生と同じ頻度で作成し、打設日毎に養生の妥当性を確認	○	1/3	○	-	○	-	-	-
テストハンマーにより強度を確認する場合は乾燥状態で行う	-	-	-	-	-	-	-	-

14

③ひび割れ対策について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
型枠は木製パネルを使用。型枠は養生期間中存置、コンクリート表面の急激な温度降下及び乾燥を防ぎ、クラックを防止	-	-	-	-	○	-	-	-
防寒養生のヒーターにはサーモスタットを取り付け、囲い内温度を5℃～15℃に保つ	○	1/3	○	-	○	-	-	△
高性能AE減水剤を添加、水和熱を抑えた配合	-	1/3	○	○	○	-	○	○

④その他								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
打継ぎ処理剤を使用	-	-	-	○	○	○	○	○
生コンの積載量は最大4.0m ³ 、納品書で確認	-	-	-	-	-	-	-	-
温度管理は打設の1時間前から行い、ヒーターにより打設箇所の温度を5℃以上	○	○	○	-	○	-	-	-

15

C社の提案								
①養生方法について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
囲いの北から北西面の壁をコンパネ等による補強	○	2/3	○	○	○	○	○	○
囲い内温度を10℃で管理、サーモスタット付ジェットヒーター、有孔のビニールダクト	○	2/3	○	-	○	○	-	-
天端露出面に保水性被膜養生剤	○	2/3	○	○	○	○	-	○
打設前日より囲い内温度を5℃～10℃に保つ	○	○	○	-	○	-	-	-
西、南、東方向の側面と天井面の一部に半透明養生パネル	-	○	-	○	-	○	-	○

②強度の管理・向上について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
供試体は標準仕様に加え現場防寒囲い内養生を目標養生日数と前後複数材令分採取	○	2/3	-	○	○	○	-	-
供試体に現場名を記載した付票を添付	-	-	-	-	-	-	-	-
アジテータ車全車の出発時及び受入れ時の温度測定より運搬による熱損失を把握し、現場の気温や気象条件で練り上がり温度の調整	○	1/3	-	○	○	-	-	-

16

③ひび割れ対策について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
打ち込み 1 層高さは上下セパレーター位置の中間(25cm)とする	-	-	-	-	-	○	-	-
耐アルカリガラス繊維のひび割れ抑制剤	○	○	○	○	○	○	○	○
躯体にひび割れ誘発目地	-	1/3	○	○	○	-	-	○
④その他								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
洗い出し不要の打継ぎ処理剤	○	2/3	○	○	○	○	-	○
雪の混入防でポンプ車のホッパー部及びアジテータ車の投入口はシート等により保護	○	○	○	-	-	-	-	-
パイプレータを下層のコンクリート中に10cm程度挿入	-	-	-	-	-	-	-	-

17

D社の提案								
①養生方法について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
養生温度最低値 5℃、寒さが厳しい場合あるいは部材厚が薄い場合は 10℃程度	-	-	-	-	○	-	○	-
暖房器具は内空をムラのない加熱に配置、暖房器具から直接的に吸熱させない	-	-	-	-	-	-	○	-
「かど」や「ヘリ」は保温が難しく初期凍害を受けやすいので送風機等により対流を促す	○	1/3	○	-	○	○	○	-
養生中は常に湿潤な状態に保つ	-	-	-	-	-	-	○	-
打設開始前から囲い内を 10℃程度とし、囲い内とコンクリートの温度差を少なくする	○	-	-	-	○	-	○	-
普通ポルトランドで、5℃以上で 4 日間、10℃以上で 3 日間等	-	-	-	-	○	-	○	-

18

②強度の管理・向上について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
受入れ時、スランプ・空気量・温度・塩化濃度・単位水量試験を所定の頻度で実施	-	-	-	-	○	-	-	-
スランプ・空気量・温度は打設が AM・PM にまたがる場合はそれぞれ一回行う	-	-	-	-	○	-	-	-
標準養生・現場養生の供試体を探取し強度を確認、脱型強度を確認するために、供試体(σ3・σ5・σ7)を多めに採取	○	1/3	-	○	○	-	-	-
シュミットハンマーによる強度確認	-	-	-	-	○	-	-	-
③ひび割れ対策について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
打設は、一層厚を 50 cm程度とし高周波フレキで下層に 10 cmほど挿入し締固め	-	-	-	-	-	-	-	-
養生マットで覆い散水をして湿潤状態を保つ	-	-	-	-	○	-	-	-
脱型直後乾燥収縮低減材を散布	-	○	○	○	○	○	○	○

19

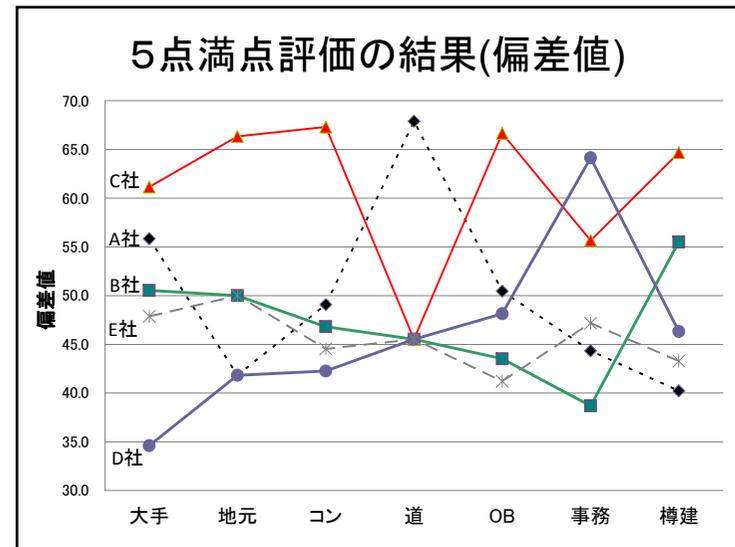
④その他								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
状態確認を常に行い、出入口の開閉等により急激な温度変化がないよう注意、出入口は寒風等の影響がないよう十分養生	-	-	-	-	-	-	-	-
後の中性化の原因になるためレイタンス除去を確実に、打設する前には十分に散水、処理材として凝結遅延材を散布し翌日に高速洗車機で骨材洗い出し	-	2/3	○	-	-	○	-	○
躯体完了後、RC レーダーで鉄筋かぶりの探査試験	○	1/3	-	○	○	○	○	-

20

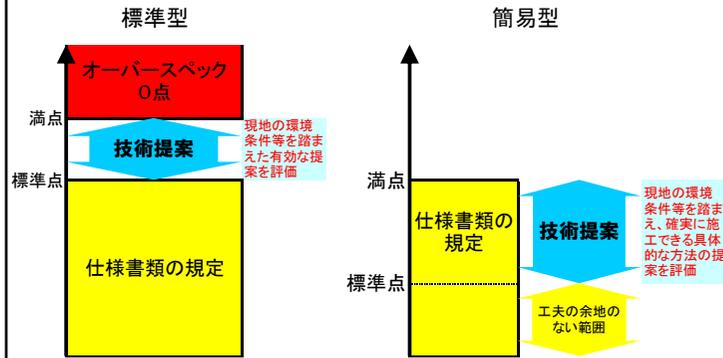
E社の提案								
①養生方法について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
温度センサーを設置、内部と側面温度の差が10℃以上にならないよう管理	○	-	○	○	○	-	-	-
型枠の上からシート又は断熱材等で覆う	-	-	-	-	○	-	-	-
表面温度が20℃を超えないよう管理	-	-	-	-	○	-	-	-
定期的に給水	-	-	-	-	-	-	-	-
初期養生を打ち切りは、コンクリート温度と囲い内温度の差が5℃以内を目標に管理	-	1/3	-	-	○	-	-	-
温風式間接型ジェットファーンを使用	○	-	○	-	○	-	-	-
囲いシート内部躯体コンクリート自体に補助シートを取り付け	○	1/3	-	-	○	-	○	-
保温保湿性の良好な木製枠を使用し打設前日から予備養生	-	2/3	-	-	○	-	-	-
21								

②強度の管理・向上について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
温度センサーにより構造物の温度履歴と供試体強度を比較して管理	-	-	-	-	-	-	-	-
計量印字記録(生コン工場より提出)により、水セメント比・単位水量を求める	-	-	-	-	-	-	-	-
④その他								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
極めて養生が不可能な場合は、保温マットと耐寒促進剤を合わせて利用	-	-	-	-	-	-	-	-
テストハンマーによる強度推定調査を実施	-	-	-	-	○	-	○	-
構造物毎に調査票を作成、「ひび割れ調査結果の評価に関する留意事項」を参考に評価	○	-	-	-	-	-	-	-
22								

③ひび割れ対策について								
提案内容	大手	地A	地B	コン	道	OB	事務	構建
打設時の目標コンクリート温度を5~15℃	○	1/3	-	-	○	-	-	-
全車について出荷時のコンクリート温度を納入書に記載	-	-	-	-	○	-	-	-
全車について現場で温度測定を実施	-	-	-	○	○	-	-	-
収縮低減剤の使用	○	1/3	○	○	○	○	○	○
型枠を解体する場合は、構造物の表面付近の温度を低下させたのち行う	○	-	-	-	-	-	-	-
開口部廻り、隅角部及び天端などの部分に、予め「太平洋ハイバーネット 60」を配筋部に配置	○	-	○	○	○	○	-	○
ひび割れ誘発目地を使用	-	1/3	-	○	○	-	-	○
コンクリートひび割れ抑制ファイバー(クラックパスター)をコンクリートに投入(標準 0.91/m ³)	○	1/3	○	○	○	○	-	○
23								



型式による評価の違い



25

総合評価の技術提案はどうあるべきか

発注者が求めるもの

- 仕様書・標準仕方書等に基づいた確実な施工
- 品質管理能力
- 会社としての現場へのバックアップ体制
- 現場条件の理解度、地域精通度
- 安全管理能力
- 臨機に対応能力
- 沿線住民との対話能力

信頼感

技術提案にどう反映させ、適正に評価するか

26

建設分野における課題への対応力

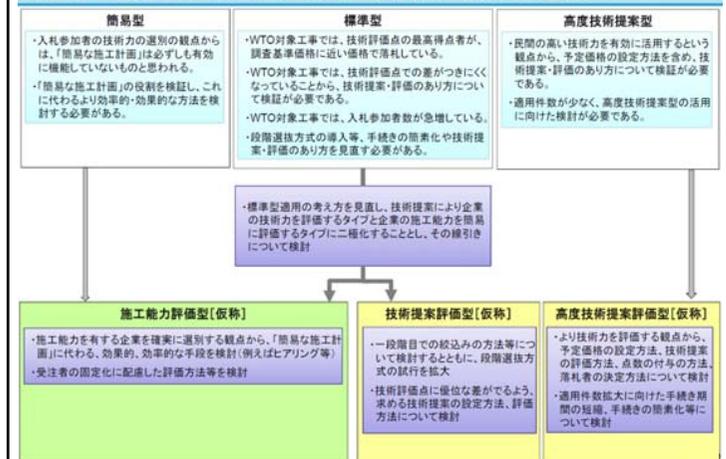
- 技術力に優れた企業が伸びる環境
 - 技術開発の促進
 - コスト縮減
 - 環境問題
 - 地域的課題
 - ➔ 地域防災力の確保
 - ➔ 地域の雇用促進
 - ➔ 地域経済の活性化
 - ➔ 地域の資源の利用促進
- 適切な利益？

技術提案、会社固有の評価

27

総合評価方式の活用・改善等による品質確保に関する懇談会の資料

総合評価落札方式のタイプ別の課題及び検討方針(案) 国土交通省



住民参加型入札実験について

建マネ研究委員会では、「建設産業の市民化」をスローガンとして、「公共工事入札における住民参加の可能性」について研究するための実験を行っています。

今年度は、蘭越町の線形改良工事で実験を行いました。

29

「一般国道5号 蘭越町 蘭越市街線形改良工事」の入札における住民参加の取り組み

取組の目的

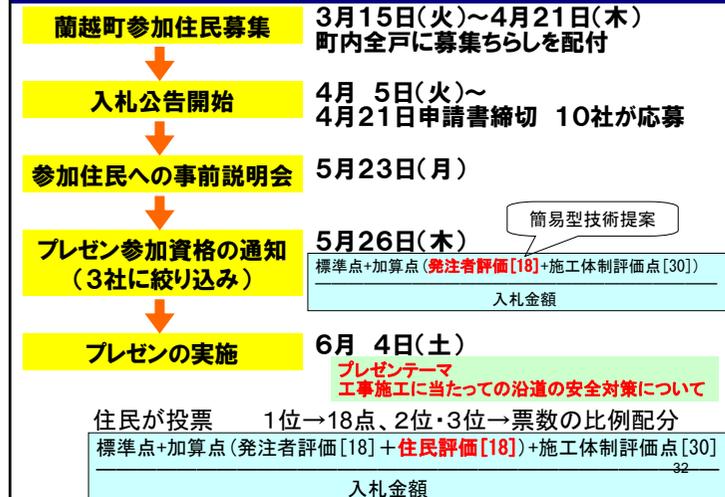
- 公共工事入札における総合評価方式は地域住民にもメリットをもたらすことにつながるが、市民の総合評価に対する認知度はあまり高くはなく、必ずしも企業の努力が報われていない面が見られ、公共工事入札に対する市民の信頼感も必ずしも高まってはいない。
- これらの改善を図るためには、市民が公共工事入札の実態を正しく理解した上で市民も加えて冷静な議論をする必要があると考える。
- また、地方の中小企業が受注対象となる技術的工夫の余地が比較的小さい工事では、総合評価を行うに際して、透明性・公平性を確保した上で企業の信頼性をどのように評価するかが課題である。
- 本取り組みは、平成21年度の「一般国道230号喜茂別町喜茂別市街交差点工事」での実験に引き続いて行った住民参加入札の実験を通じ、住民参加入札がこれらの課題の改善に寄与する可能性について明らかにしようとするものである。

30

住民参加型入札の研究の経緯

時 期	研究委員会の活動経緯
平成 15 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> 「第 21 回建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会」が札幌で開催 建設産業の市民化を目指す「札幌宣言」を発表
平成 18 年 2 月	<ul style="list-style-type: none"> 「北海道土木技術会建設マネジメント研究委員会」において住民参加型入札を提唱
平成 20 年 1 月	<ul style="list-style-type: none"> インターネットを介して入札制度に関わる住民意識調査を実施 <ul style="list-style-type: none"> 北海道内在住の300人を対象 必ずしも安さのみ求めておらず、品質が重要と考えている 公共調達に対する不信感がある 公共調達の過程に市民が参加することに肯定的 など
平成 20 年 11 月	<ul style="list-style-type: none"> 住民参加型入札の模擬入札を実施 <ul style="list-style-type: none"> 模擬の工事(歩道設置工事)を設定し、研究委員会会員5社が模擬のプレゼンテーションを作成 一般市民である被験者によるプレゼンテーション評価を実施
平成 21 年 6 月	<ul style="list-style-type: none"> 小樽開発建設部発注の「一般国道 230 号喜茂別町喜茂別市街交差点工事」の入札において住民参加型入札の実験を実施 プレゼンテーションにより住民が施工業者に投票し、得票順位に応じて加算点を付与する総合評価方式によって落札者を決定
平成 23 年	<ul style="list-style-type: none"> 「一般国道 5 号蘭越町蘭越市街線形改良工事」において、住民参加型入札第 2 弾を実施

蘭越工事における住民参加入札手続き工程



32

住民参加型入札の総合評価の方法

①発注者総合評価による絞り込み

- プレゼンによる住民の拘束時間を考慮し、プレゼン参加業者数を3社に絞り込んだ
- 簡易型総合評価により上位3社に通知

②3社によるプレゼンの実施

- 3社のプレゼンに対する住民の投票
- 投票結果を総合評価加算点に換算して評価値を計算
- 評価値第1位の会社に落札決定

33

③プレゼンテーマ

- 「工事施工に当たっての沿道の安全対策について」
- 今回は、プレゼン業者の負担軽減のため、テーマを絞って実施(前回の喜茂別ではプレゼンテーマ設定せず)
- 発注者評価の「施工上配慮すべき事項」では、このテーマを除く提案とした

④プレゼン実施手順

- 公平のため、喜茂別での改善意見を反映して、発表順をくじ引きで決めた
- プレゼン時間は各社20分(内質問5分)

34

⑤住民評価

- 住民は、次の評価シートでそれぞれ5段階評価を行い、3社のプレゼン終了後、1社を選んで投票
- プレゼン参加業者には評価シートを事前に通知

1	工事中の歩行者の安全に効果があったと思いましたか	「思わない」から「思う」まで5段階
2	工事中の自動車の安全に効果があったと思いましたか	「思わない」から「思う」まで5段階
3	工事中の自動車の円滑な交通に役立つと思いましたか	「思わない」から「思う」まで5段階
4	提案された内容は、良く工夫されていると感じましたか	「感じない」から「感じる」まで5段階
5	提案を聞いて、会社の技術力を感じましたか	「感じない」から「感じる」まで5段階
6	提案を聞いて、地域のことを良く理解していると感じましたか	「感じない」から「感じる」まで5段階
7	説明は分かりやすかったですか	「分かりにくい」から「分かりやすい」まで5段階
8	業者に信頼感を感じましたか	「感じない」から「感じる」まで5段階

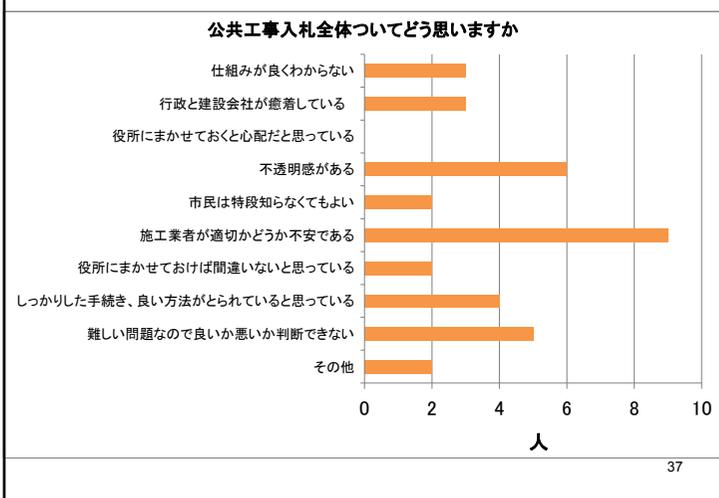
35

⑥その他

- 住民のプレゼン3社に対する姻戚関係の有無を確認した(自己申告で、本人と3親等以内の血族に社員がいるかどうかなど)
- 3社の禁止事項等を以下の通りとした
 - ・発表にあたって入札金額は、公表しない
 - ・プレゼンテーション資料は、契約書の一部として提出
 - ・住民に対する便宜供与、若しくは便宜供与を連想させる発表をした場合は、その時点で発表を中止させる。
 - ・事前に地域住民と接することの禁止
 - ・参加者に対する金品等による寄付・買収行為の禁止。
 - ・プレゼン参加する企業として選定されたことは、プレゼンテーション当日まで、他言しない など

36

住民への事前アンケート



住民参加入札結果

会社名	発注者評価点(18点)		施工体制評価点	住民評価点(18点)	入札金額(億円)	評価点数	住民得票数
	施工計画	実績等					
A社	8.0	5.5	30		0.7170	200.1394	
B社	8.0	4.5	30		0.7244	196.7145	
C社	8.0	4.5	30		0.7280	195.7417	
↓							
B社	8.0	4.5	30	18	0.7244	221.5626	12
A社	8.0	5.5	30	12	0.7170	216.8758	8
C社	8.0	4.5	30	0	0.7280	195.7417	0

◎住民投票の結果、逆転でB社が落札

38

項目別の5段階評価による住民評価

住民が①～⑧の項目で各社を5段階評価した結果である全体としてA社の点数が高い。落札したB社は「地域精通度」が高い。

	A社		B社		C社	
	平均	順位	平均	順位	平均	順位
① 工事中の歩行者の安全に効果があると思いましたが	4.05	1	3.89	2	3.00	3
② 工事中の自動車の安全に効果があると思いましたが	3.90	1	3.65	2	3.00	3
③ 工事中の自動車の円滑な交通に役立つと思いましたが	3.75	1	3.58	2	2.95	3
④ 提案された内容は、良く工夫されていると感じましたか	3.65	2	3.70	1	2.70	3
⑤ 提案を聞いて、会社の技術力を感じましたか	3.65	1	3.60	2	2.95	3
⑥ 提案を聞いて、地域のことを良く理解していると感じましたか	3.75	2	4.25	1	2.45	3
⑦ 説明は分かりやすかったですか	4.05	1	3.85	2	2.85	3
⑧ 業者に信頼感を感じましたか	4.05	1	4.00	2	3.05	3

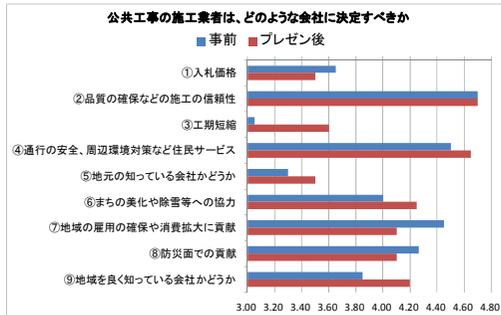
39

- A社とB社の投票数の順位は、項目別5段階評価の点数の順位とは逆転する結果となった
- 「⑥提案を聞いて、地域のことを良く理解していると感じましたか」の設問では、B社は、群を抜いて高い評価を得ており、当該評価が投票結果に結びついたと考えられる。
- B社はプレゼンの中で登校の具体的な時間帯を示し、ダンプの出入りを行わないことや、低学年と高学年では下校時間が違うことをなどを示した上で具体的な誘導方法を説明するなど、地域事情の理解に立脚した配慮を示したことがこれらの評価につながったと考えられる。



40

- プレゼン前後の業者選定の重要度に関するアンケート結果であるが、「品質確保」、「通行の安全・環境対策」は事前・事後とも高い重要度を示している。
- 事前では「雇用、消費拡大」が高かったが、プレゼン後では、「美化、除雪協力」、「地域精通度」の重要度の評価が上昇している。



41

入札金額開示後の投票の変化について

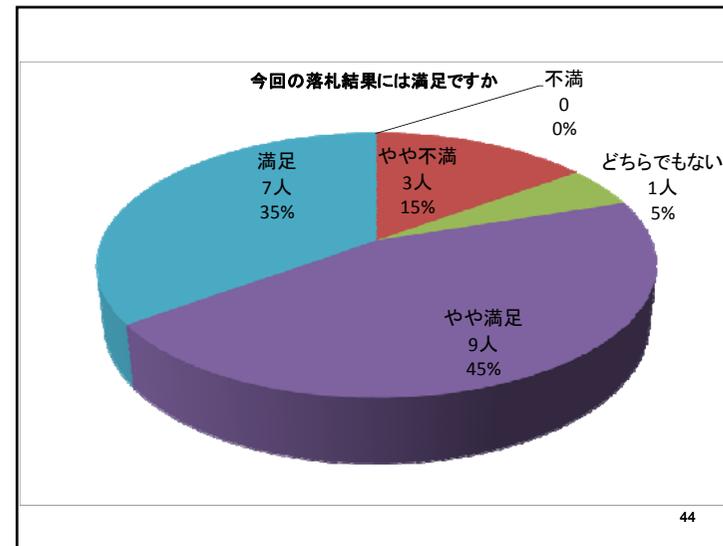
- プレゼン時点では住民には各社の入札金額は示しておらず、各社からのプレゼンだけで投票を行かせたが各社の入札金額を見た後にどのように意思が変化するかをアンケートしたものが下表である。

プレゼン後		金額開示後	
A社	8人	A社	6人
		B社	1人
		無回答	1人
B社	12人	A社	5人
		B社	5人
		無回答	2人
計		A社	11人
		B社	6人
		無回答	3人

42

- B社とA社の入札価格差は74万円だったが、金額開示後のアンケートでは、B社からA社に投票先を変えたのが5人になった。
- プレゼン内容の優劣は僅かであり、金額がより安い方が良いと感じた住民が多かったと考えられる。
- 今回の実験では、住民個人は必ず業者間の優劣を付けて1社を選ぶという投票を採用し、また、得票数に応じて加算点数の差がつきやすい1位満点比例配分方式を採用したが、提案内容の優劣の差以上に得点差が大きく現れる可能性がある。
- 今回は業者の負担を考えてプレゼン内容のテーマの絞り込みを行ったが、住民参加型入札全般に関する主な自由意見の中では「提案内容が安全関係のみでは差がつきにくい」という意見もあった。
- その一方で、今回の落札結果に対する満足度は高く、「満足」と「やや満足」を合わせると8割となった。

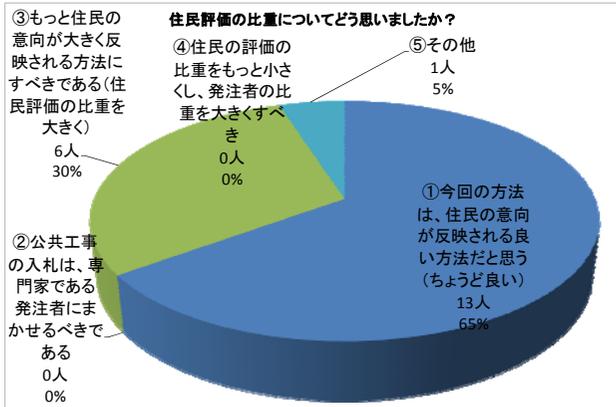
43



44

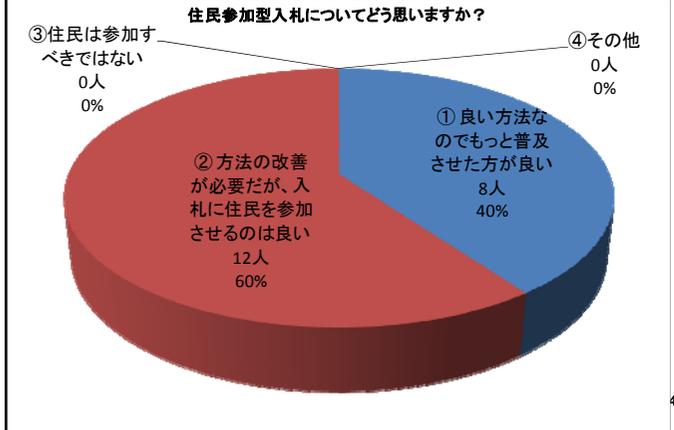
住民参加型入札に参加した感想について

今回の住民評価の比重について聞いた結果では、「ちょうど良い」とする意見が65%と多かったが、「住民の意向をより高く反映させた方が良い」との意見が30%となっている半面、「発注者の比重を高めるべき」という意見は無かった。



45

・住民参加型入札についてどう思うかの設問では、40%が「良い方法なのでもっと普及させた方が良い」、60%が「方法の改善が必要だが、入札に住民を参加させるのは良い」と答えており、概ね住民参加型入札に肯定的な結果となった。



46

参加住民からの全体を通じた自由意見

- ・どの業者もいまひとつ、という場合でも1社選択しなくてはならないことに苦しさがあった。
- ・提案内容が安全関係のみでは差がつきにくいし、一般の人には短時間では理解しきれないと思います。その会社が施工することによる地域への具体的なメリットを提案するほうがよいと思います。
- ・評価人の中立性はもっと調査すべき事項と思います。経験が浅くても、高い技術力を持った業者が入札しやすくなるようにしてほしいです。
- ・発注者の評価基準(内容)を知りたい
- ・住民参加型総合評価プレゼンテーションについての試行は良い案だと思う。予定金額、落札率等を知らせていただきたい。
- ・共通の質問事項があると、より判断の基準材料となると思う。

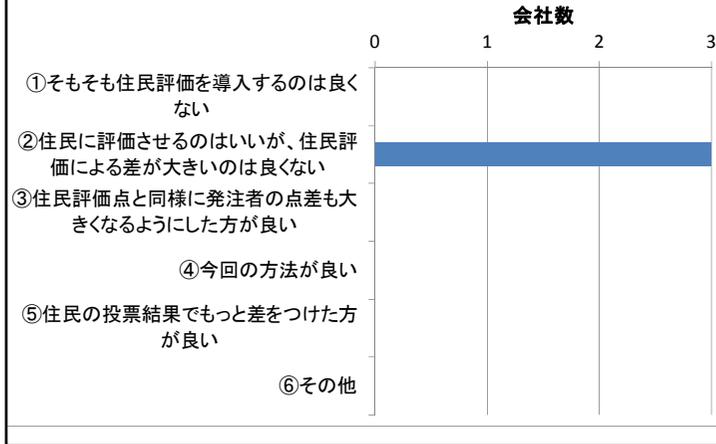
47

- ・各社の特徴や工事に対する姿勢を知ることができた。住民に工事内容を知らせることによって、社側にも緊張を持って工事の工夫や地域に対する貢献度も高まるものと思うので、住民参加型の入札制度は継続したほうが良い。事前に住民の意見が反映できるようなシステム化ができればよいと思う。
- ・今回の参加者について、何らかの形で増やすことはできなかったのでしょうか。30名弱の人数では少なすぎると思います。
- ・今回のプレゼンは業者のほうが住民側にたつてとても良いものだと思います。安全性についてはどの業者も当たり前のことだと思います。プレゼンに参加した私たちも、業者の悪いところを探すのではなく、協力しあい、良い仕事をしていただくことだと思います。今回参加し、私たちの選んだ業者の仕事を見せてもらい、次に活かせるように、またプレゼンに参加したいと思います。
- ・今後も工事の大小にかかわらず、このような住民参加型を続けてほしい。
- ・もっと住民に入札についての正確な説明を伝えていったほうが良いと思う。

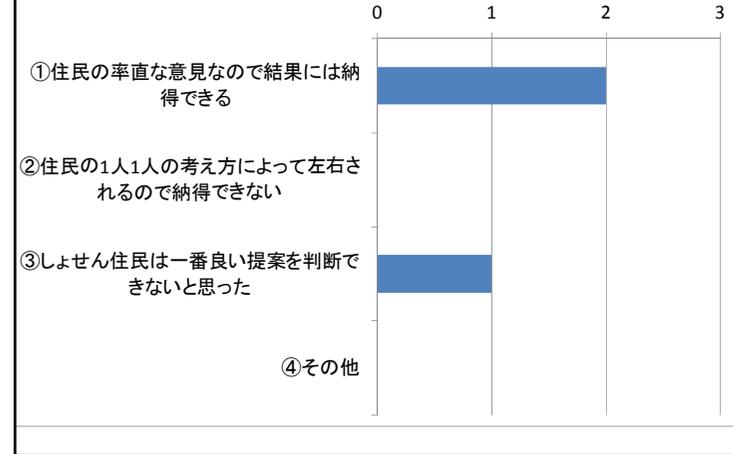
48

参加業者の感想

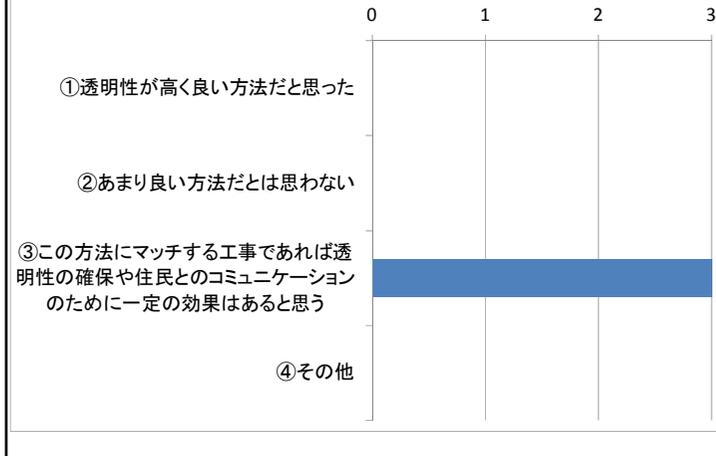
住民参加型総合評価の評価値の算出方法



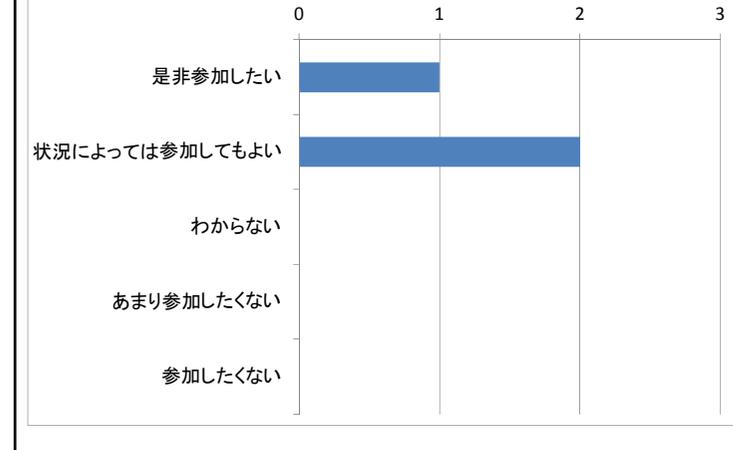
住民の投票結果について



住民参加型入札について



今後、住民参加型入札のプレゼンに参加したいですか



住民参加型入札まとめ

- 住民アンケート結果からは住民参加型入札について普及を求める意見は多く、公共工事入札の不透明感改善を期待されている
- 必ずしも、自分の意見が結果に反映されなかった場合でも、住民参加型入札結果に対する満足度は高いという結果となった
- その一方で、発注者の評価の比重を高めるといった意見は無く、発注者評価の信頼感の向上には至っていない
- また、プレゼンのテーマ設定や加点方法、参加住民の人数・中立性の担保などといった課題も残る結果となった
- 当該工事については、現在施工中であるが、今後、住民参加型入札で施工業者を決定したことに対する、施工上の効果などについて、住民にアンケートを行う予定としている
- 住民に身近で工夫の余地の小さい工事という前提で、総合評価方式のオプションとしての住民参加の可能性は十分にあり、引き続き、今回の実験結果を踏まえた研究を進める必要があると考える

53

総合評価の課題

- 配点の仕方によって結果は変わる
 - 技術提案の得点差を大きくするか小さくするか(相対評価、絶対評価)
 - 得点差を大きくすれば価格競争の比重は薄まり、低価格化に歯止めがかかる?
 - 得点差を小さくすれば、各社の持ち点(工事成績点、表彰点等)の差が効いてくる。価格は下がる?
- 評価の仕方によって結果は変わる
 - 技術提案のオーバースペック分を評価するか、仕様書内での施工方法等の確実性を評価するべきか。提案内容の経費が違ふ。
 - 相対評価、絶対評価、評価者の考え
- いろいろな方法によって結果は変わる
 - 技術者の工事成績を重視
 - 技術者の表彰の配点を重視
 - 手持ち工事量を評価
 - 地域精通度を細分化して重視
 - その他

54

- 施工の信頼性に結びつくものは何か
 - 過去の実績(成績、表彰、同種工事)?
 - 技術提案作成時にどれだけ地域状況を調べ上げているか?
 - 技術提案でどれだけ高度な新技術・工法を使うか?
 - 地元の業者か?
 - 優秀な技術者が配置できることか?
 - 会社としての現場のバックアップ体制?
 - 下請けが優秀?
 - 事故を起こしていないこと?
 - 手持ち工事量が無いので当該工事に全力投球できること?
 - 技術提案が読みやすい。誤字脱字がない。
 - 積算が正確である など
- 総合評価方式でそれらを総合的に評価できるのか悩ましい
- 市民が業者を選ぶとしたら数値化して割り算をするか
- 発注者としては、数値化しなければ説明責任を果たせない
- 技術提案にそれほど差が無ければ安い方という感覚
- 総合評価方式に多様な選択肢を用意すべきか
- 発注者として何を考えて対応すべきか

55